

自由民主党「バス議員連盟総会」が開催されました

令和6年3月22日（金）、自由民主党「バス議員連盟総会」が開催されました（於 衆議院第二議員会館 多目的会議室）。衆・参36名の先生方にご出席いただきました。

日本バス協会からは清水会長はじめ、宮坂高速バス委員長、古川環境対策委員長・外国人運転者受入推進部会長、早川税制対策委員長、金井労務副委員長、西村貸切副委員長などが出席しました。

冒頭、バス議連会長の逢沢先生より、今回の議連は、主に自動運転の今後の可能性と2024年問題について、皆さんでしっかり議論したい、とのご挨拶がありました。

また、清水会長から、現在のバス業界の喫緊の課題である運転者不足に関する2024年問題や外国人運転者受入れ制度のほか、カスタマーハラスメントの防止、キャッシュレス化の推進といったことへの理解及び支援をご出席の先生方に強く訴えたの



の続き、外国人運転者受入推進部会長の東急バス(株)・古川社長より、東急バスが展開するベトナムのバス会社で働く運転者の様子を動画で紹介し、今後の外国人運転者受入れ制度への理解と支援を求めるとともに、貸切副委員長の東京バス(株)・西村社長からは、働き方改革関連法における勤務間インターバルについて問題提起がありました。

このあと、今回のテーマである自動運転に関して、神奈川中央交通(株)・今井社長より先に平塚市で実施した実証実験の状況について、また、BOLDLY(株)・佐治社長より自動運転バス先進国に向けた取り組み等について、それぞれ説明があり、自動運転バスの技術レベルや降雪時における対応状況、街中での様々なインフラとの連携などについて質疑応答が行われるとともに、一部の先生からは自動運転への強力なバックアップを表明する心強いご発言もいただきました。国土交通省からは、大幅に増額された自動運転関連予算を有効に活用するなどして、早期の社会実装に向けて取り組んでいくなどの発言がありました。

最後に逢沢会長より、今後、自動運転についてはできるだけ目標年次を定めて対応していきたい、また、外国人運転者の問題や勤務間インターバルの問題等についてももしっかり対応していきたい、とのお言葉をいただき終了しました。